

ぱーとなー

2007年3月
第64号

耳原総合病院の理念

耳原総合病院はこんな医療をめざしています
安全・安心・信頼の医療
私たちは患者様とともに力を合わせて医療をすすめます
無差別平等の医療
私たちは人権を尊重した医療をすすめます
患者負担の少ない医療
私たちは室料差額はいたしません
地域とともに歩む専門職の育成
人権感覚をもつ専門職を養成します

生命の『悲鳴』聞こえませんか？

『安らぎ』への第一歩をサポート。

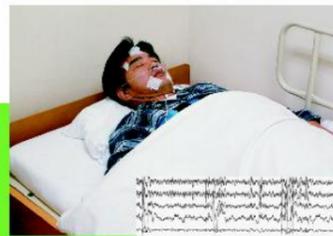
『高いびき』は『熟睡』の証拠ではありません。
『眠れていない』兆候なのです。

SAS = 睡眠時無呼吸症候群。日本の患者はおよそ2%・200万人ほどと推定されていたが、最近の調査では就労年齢（男性）の実に13%もの人がSASにかかっていることが判明しています。

SASのそのまた最大の症状がOSAS = 閉塞性睡眠時無呼吸症候群。閉塞、つまり気道が詰まってしまうこと。日本人のほとんどが人種的に北方モンゴロイド系で、骨格はアゴが細くて後退している。『もともと狭い気道なのに、食生活の欧米化、運動不足などでまわりに余分な肉や脂肪が付きやすい。そこで、横になったら気道が圧迫され、閉じられてしまう。体重が5キロも増えたら誰でもあぶない。だから生活習慣病と表裏一体。これはもう国民病といえます。

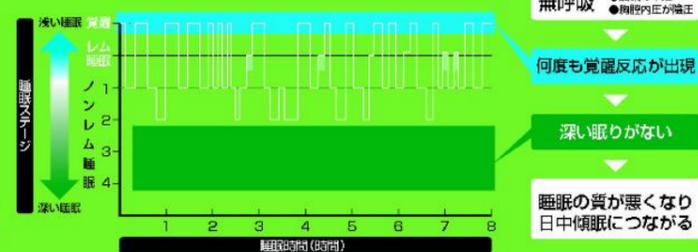
しかもSASは、働きざかりの男性ばかりではなく、中年女性（特に閉経後）や乳児にまでみられるという。SASを配置転換の理由のひとつにする企業もあり、契約事項の中にSASを加える保険会社も出てきています。

睡眠障害が注目され始めたのは近年のことで、大学の医学部でも『睡眠学』の講座をもつのは全国でわずかに2つ。『睡眠学会』認定の医師も少なく、多くの病院が検査も出来ないというのが実状です。



典型的OSAS患者のPSG（終夜睡眠ポリグラフ検査）
90秒程度の無呼吸を1晩に約500回繰り返す

OSAS患者の睡眠パターン



耳原総合病院の『睡眠外来』では、まず専門医の診察を受け、検査の必要な患者様には一泊していただき、信頼性の高い検査機器を駆使し、熟練の技師の補助のもとで（終夜睡眠ポリグラフ検査 = 8時間以上の睡眠状態）脳波、呼吸、心拍、血圧、血中酸素濃度などのデータをポリグラフにかける。そのデータを専門の医師が解析することで高い精度で診断しています。

SASに起因する症状には『いびき』だけでなく、『ムズムズ足症候群』やその他の睡眠障害を見つけるために（もちろん患者様の了承を得て）就寝室にはビデオモニター用のカメラも設置してあります。

10秒間以上呼吸が止まった状態を無呼吸とみなし、1時間あたり5~15回が軽症、15~30回は中等、30回以上は重症。中には120回という患者様もありました。

現在、最も有効な治療法として第一に選択されているのが『CPAP = シーパップ療法』。鼻に装着したマスクから持続的に空気を流して気道を広げ、睡眠中に気道が閉塞するのを防ぎます。無呼吸20回以上（1時間あたり）で保険が適用され、レンタルで持ち帰って使います。全国で約10万、耳原総合病院の『睡眠外来』の患者様、およそ120人に利用されています。

『睡眠外来』（完全予約制）
みみはら高砂クリニック
第1、3、5月曜日 17:30~19:30

耳原総合病院
毎週 火曜日 17:30~19:30



耳原総合病院地域医療室
電話 072-241-0324
Fax 072-241-0208
Fax 072-241-0670
受付時間 月・水・金 午前9:00~午後7:00
火・木 午前9:00~午後5:00
土 午前9:00~午後1:00

お電話で患者さまのご都合に合わせて予約いただけます。

折り返しFAXにて予約票をお送りします。

事前にカルテを準備してお待ちします。

カルテ作成に必要な情報をFAXして下さい。

予約当日、患者さまが受診の際

保険証 診療情報提供書 上記予約票をご持参下さい。